

蒲原町サマースクール開催と地域活性化

(代表) 空間造形学科	教授	川口 宗敏
技術造形学科	助教授	望月 達也
空間造形学科	助教授	鳥居 厚夫
芸術文化学科	助教授	岩淵 潤子
芸術文化学科	教授	大山千賀子

1. 研究の目的

現在、地方中小都市は、地方分権の考えに基づいて独自の地域活性化策を模索している。静岡県蒲原町では、文化芸術活動を中心に据えた町活性化を企画し、2000年に本学に対し文化芸術活動の支援を要請してきた。そこで、本学教官・学生と蒲原町民との共同ワークショップ形式によるサマースクールを実験的に試みた。

このサマースクール開催の目的は、蒲原町内の文化財や歴史財などの資源を活用して町の文化芸術活動を活性化すること、本学の先進的かつ多様な文化芸術活動を学内・外へと情報発信すること、本学と蒲原町との文化・人材交流の促進を図ることであった。

以下、2002年8月に開催した「サマースクール in かんばら」2002年の活動概要を報告する。

2. 実施内容

「サマースクール in かんばら」2002年は、2002年8月22日から8月25日までの4日間、蒲原町文化センターを主会場に開催された。このサマースクールは、前年度に開催された「サマースクール in かんばら」2001年を継続した事業である。ここでは、2つのワークショップが設けられ、町民19名、本学教官3名、学生18名が参加した。ワークショップ1は「夜の蒲原PART2…音と明かりの融合」をテーマに、ワークショップ2は「暮らし・まち並み風景シミュレーション」をテーマに実施した。以下、2つのワークショップの活動内容の概要を示す。

(1) ワorkshop1「夜の蒲原PART2…音と明かりの融合」

このワークショップは、前年度よりも作業日数が1日少なくなったが、前日に富士川河川敷での流木拾いを行い、かつ地元NPO「里山研究会」の協力により竹収集を済ませたことで、作品制作時間の確保を図った。使用材料は、前年度同様、流木、竹、和紙、鉄、布などを使用した。光源は電灯、ローソクなどを用いた。照明オブジェの完成作品数は、44作品となった。夜間の照明オブジェ設置場所として、前年度と同じ町道善福寺線が充てられた。5時間の展示時間帯は車の進入を禁止し、歩道をフルモール化することで、町道善福寺線を大きなイベント空間に変えた。このイベント空間の主役である照明オブジェに加え、尺八奏者である縄巻修巳氏の演奏、地元の民謡と尺八の会による演奏などにより、テーマである「音と明かりの融合」

を演出した。蒲原町商工会協力による出店もあり、来場者は約1,500人を数え、照明作品のプレゼンテーションとしては、大盛況であった。これは、前年度の反省を踏まえ、視覚中心の「明かり」だけでなく、聴覚にも訴える「音」を導入することで、より多彩な演出が可能となった成果であると言える。このワークショップ1は、川口宗敏・鳥居厚夫の指導により行われた。(写真1、写真2、写真3、写真4参照)

(2) ワークショップ2「暮らし・まち並み風景シミュレーション」

このワークショップ2「風景シミュレーション」では、写真のデジタル技術を活用し、蒲原町に残された文化財や歴史的資産を記録し、町のこれからの文化財保存や教育に生かす試みであった。大別して2つのことが行われた。1つは、昔の蒲原町の写真を収集し整理する。昔の写真をスキャニングし保存する。昔とほぼ同じ場所で、現時点での写真を撮影し、過去と現在を比較・考察する。2つ目は、蒲原町に残る「蒲原古代塗」という漆作品を撮影し、デジタル技術を活用して記録する。以上の作業の記録結果は、町道善福寺線で行われた照明オブジェの展示と平行して、一般の町民に蒲原町の文化財に対する理解を更に深めてもらう試みとして、夜間における屋外空間でのスライド上映が行われた。参加した人は、昔の蒲原町の姿を知り、かつ写真のデジタル技術を学んだだけでなく、世代間で活発なコミュニケーションが行われたことも有意義であったと言える。このワークショップ2は、望月達也の指導により行われた。(写真5、写真6、写真7、写真8参照)

以上、「サマースクールinかんばら」2002年では、ワークショップ1・2とも4日間の日程で実施された。このサマースクールでは、ワークショップ数が4から2に減ったが、内容・評価とも前年度と比べて遜色ないものであったと考える。それは、前回の経験を活かし、スムーズなワークショップ運営と成果発表にけるプレゼンテーション方法において工夫・演出することができたからである。

3. まとめ

2001年と2002年の2年間に渡り実施した「サマースクールinかんばら」は、当初の目的である、(1)蒲原町の文化芸術活動を中心とした地域活性化への貢献、(2)本学の先進的かつ多様な文化芸術活動の学内・外への情報発信、(3)蒲原町と本学との文化・人材交流の促進、(4)本学教員の教育研究能力と参加学生の学習能力の向上といった諸点において、幾らかの貢献ができたものと考えている。

今後の課題としては、蒲原町での成果をどの様に蒲原町内外、大学内外で活かしていくことができるか検討する必要がある。とりわけ、長期間休みの夏休みを利用したサマースクールの様な短期集中的な教育プログラムの展開は、学生や教官にとって通常の授業では得られない貴重な機会であり、創造的に様々な事柄を試すことが出来る好機でもあったと考える。

参考文献：「サマースクールinかんばら」の報告、静岡文化芸術大学研究紀要 第3巻
2003年3月、123頁～129頁

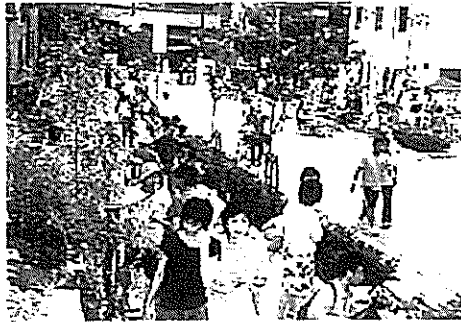


写真 1. 町道善福寺線でのプレゼンテーション風景



写真 5. 教官によるオリエンテーション風景



写真 2. 学生と町民の共同制作風景



写真 6. 写真整理作業風景



写真 3. 「音と明かりの融合」プレゼンテーション風景

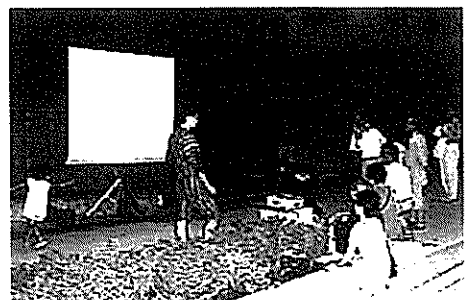


写真 7. 屋外空間でのスライド上映



写真 4. 鈴木朝子の照明作品「炎」

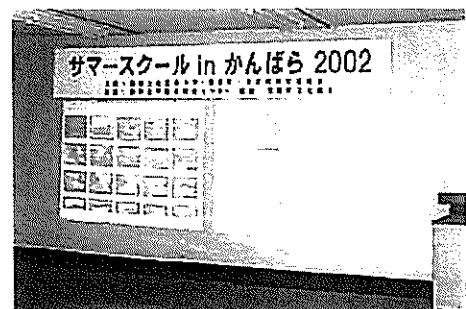


写真 8. 全体発表会での風景シミュレーション映像の一部